

# 国鉄大隅線廃止30年記念企画

～思い出をレールに乗せて～



国鉄大隅線が昭和62年3月14日に廃止となり来年3月で30年を迎えます。それを記念し国鉄大隅線の歴史を振り返ってみましょう。

国鉄大隅線は路線総延長98.3kmの地方交通線なんぐうけいべんてつどうで、大隅線の歴史は大正4年に南隅軽便鉄道が高須－高山間を開業したのが始まりで、今から約100年前の事です。

その南隅軽便鉄道が翌年に社名を大隅鉄道に改め、昭和10年に大隅鉄道は買収・国有化され菱田・大隅大崎・東串良、昭和12年4月19日に三文字駅が新設されました。

以降は戦後となり、昭和36年に海潟まで開通、昭和43年9月に赤字83線に挙げられつつも昭和47年に国分まで開業し全通開通、名前を大隅線に改めました。

しかし、旅客輸送密度低下により昭和62年3月14日に全線廃止となりました。国分と海潟温泉までの間は、昭和47年の開業から15年しか経っていなかったことから大隅線は『短命ローカル線』と呼ばれました。

大隅線の総延長98.3kmは、国鉄の廃止路線の中でも屈指の長大路線でもありました。大隅線の東串良から串良までの区間が0.6キロは全国で一番短い区間でもあり、国分から垂水駅区間は錦江湾の向こうには雄大な桜島がそびえ、鹿児島島の深奥を旅している気分で太陽に照らされた蒼い海が広がり、陽を浴びた空気と潮風が入り混じり、レールを打つ音を聞くその風景は風情がある良い眺めだったと言われています。

また大隅の田園風景を眺めながらの路線ものんびりとし、電車で揺られながら心が安らぐゆったりとした風景でした。国鉄大隅線を利用し学校に通う生徒にとっては、通学に利用するだけでなく、友達との交流の場であり、淡い恋の舞台でもあり青春の思い出が詰まった場でもあったようです。

大隅線跡のせせらぎ公園周辺は、今の季節、約400本の桜を楽しむことができます。

他の街でも廃止路線や駅の一部はウォーキングロードやサイクリングロードになったり、鉄道記念公園となって多くの人々に親しまれています。



写真提供：海老原昭雄さん



## ◆◆◆お知らせ◆◆◆

広域交流活性化センターあるばる大崎で国鉄大隅線に関する写真を数多く所有する海老原昭雄さんの写真展が開催されます。

この機会に懐かしい電車や風景、大隅路をお楽しみください。

展示期間 4月20日(水)～5月8日(日)

会場 あすばる大崎1階口ビー

時間 7:00～21:00